

外部情報料適正化
(海外取引所・情報ベンダー)
支援のご提案

株式会社ジーニアス

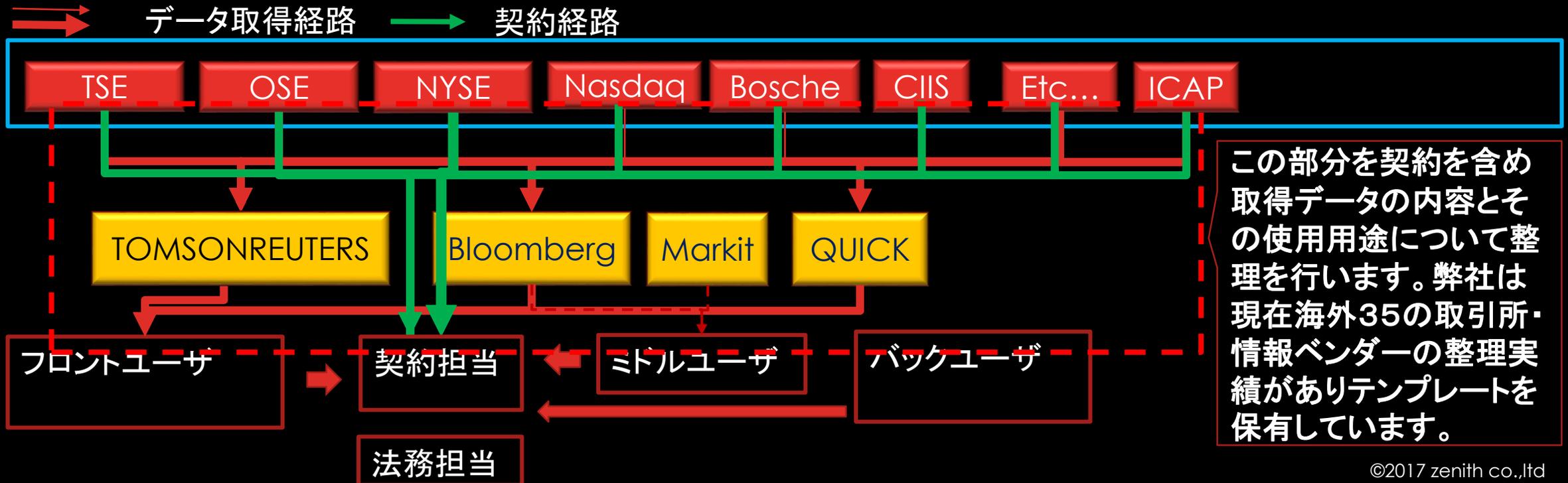
2017年5月22日

金融機関のフロントオフィスにて使用している海外の取引所MARKETDATAについては、従来は代表的情報ベンダーであるTOMSONREUTERS/Bloomberg社からデータ取得を行うと同時に契約についても情報ベンダーに依存してきました。近年各国の取引所は、無償で配信してきたデータを有料化すると同時に契約についてもデータ使用顧客との直接契約をデータ使用契約の条件としてきています。

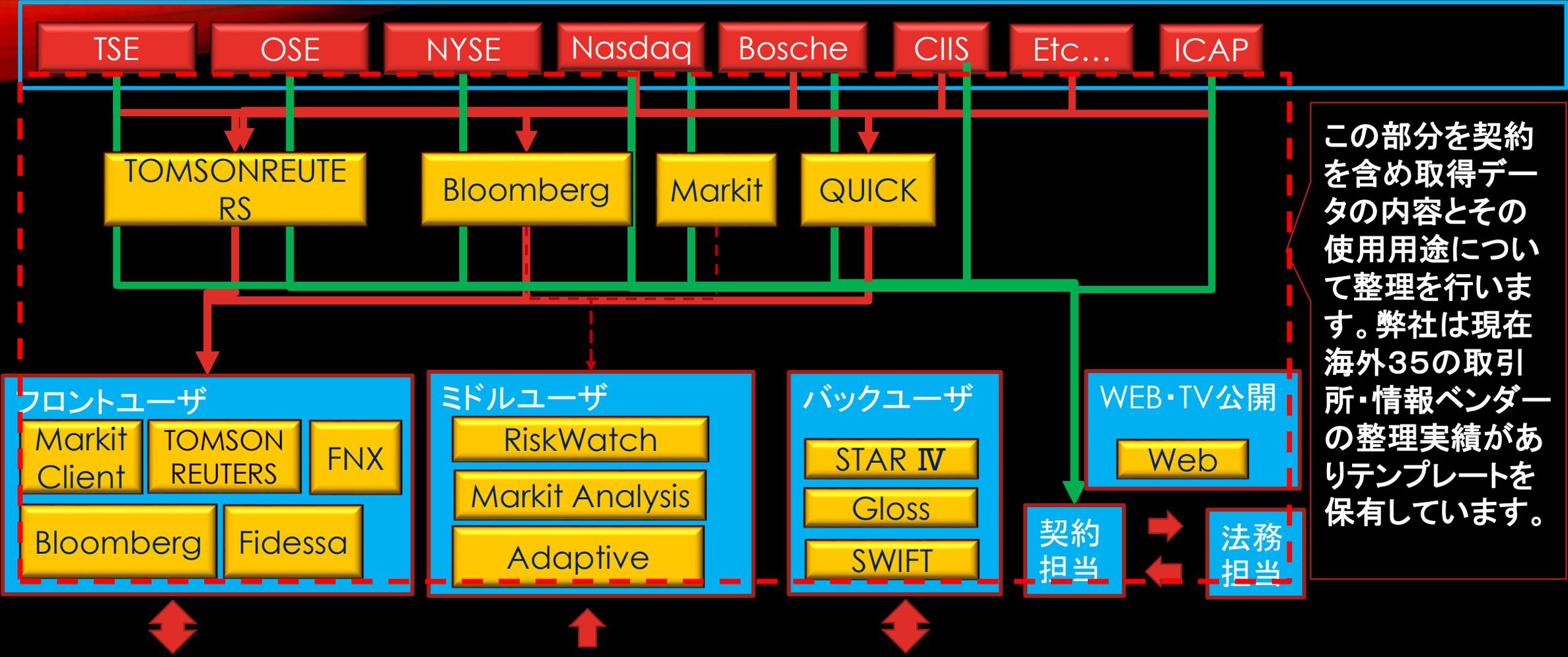
一方で使用ユーザである金融機関のフロントユーザ(取引所データ使用者)は、職性上退職率が高く必要な取引所・商品データと該当契約における商品との関係まで熟知したメンバーが少なくなっているのが現状です。

フロント・ミドル・バックにて使用する取引所データへの要求要件(リアル性・取得必須タイミング)について金融機関内(行内)横断的な必要要件について熟知しているメンバーも少なくなってきました。

その結果市場系の取引所・情報ベンダーデータが冗長に取得されている若しくは、非効率に運用されている事が想定されます。解決策として弊社のサービスにより調査・整理を実施し必要要件・使用用途の整理を行います。



フロント・ミドル・バックのどのシステム・EUCに使用されているかの調査・整理を行います。

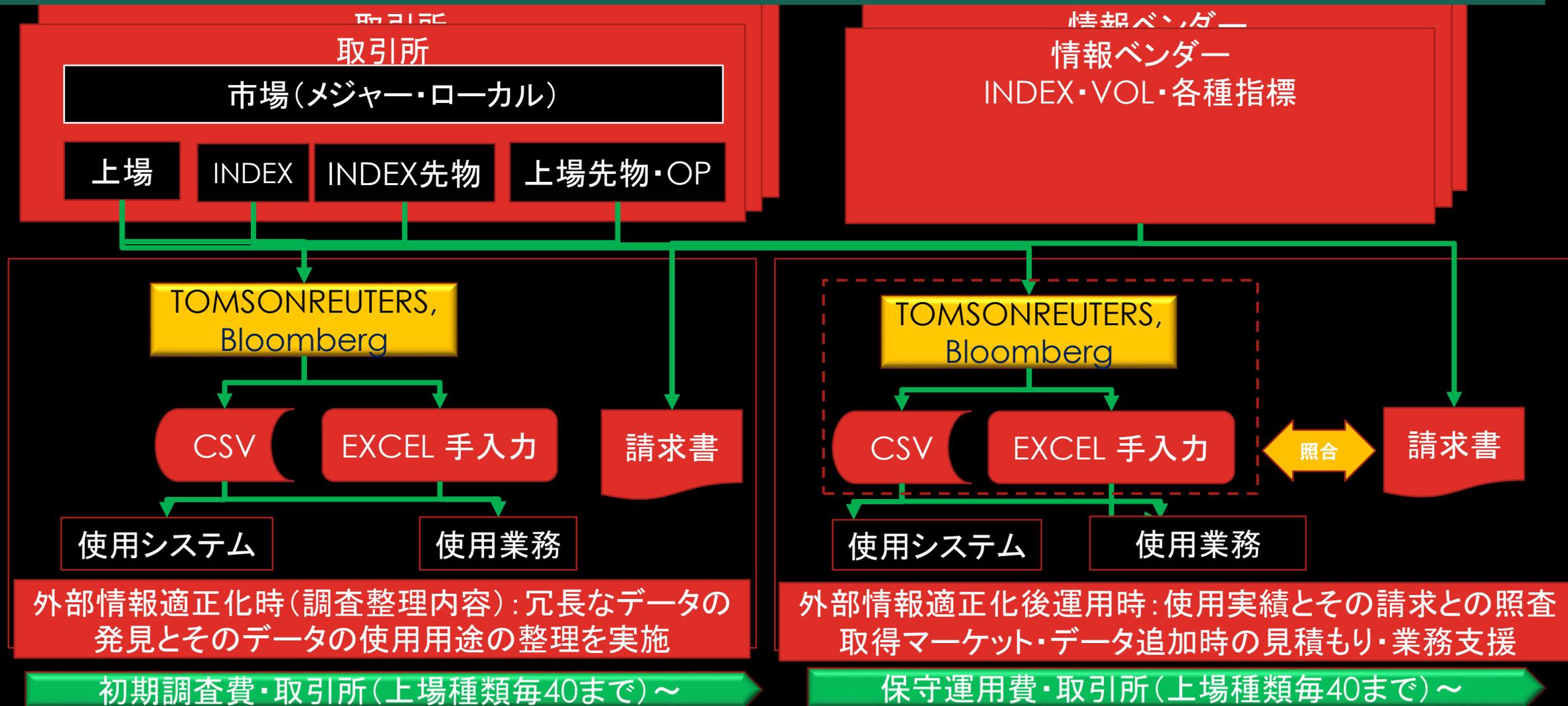


この部分を契約を含め取得データの内容とその使用用途について整理を行います。弊社は現在海外35の取引所・情報ベンダーの整理実績がありテンプレートを保有しています。

フロント・ミドル・バック 共通残高管理システム

外部情報料適正化後の運用支援:取引所・情報ベンダーデータの調査・使用用途整理後においてもデータの使用実績と請求されているデータとの照合チェックを実施します。(冗長なデータ取得が実施されていないかの継続的チェック・提言・リバースチャージのアドバイスを実施します。)新商品取り扱い時の取引所・データ追加に伴う取引所との契約資料作成を支援します。

取引所・商品種別を1単位として 40商品までを調査費用の1単位としています。(5単位以上増加毎に費用追加)



外部情報料適正化に関して予想される費用削減効果

個別ご提案

取引所	月間コスト	年間コスト	個別ご提案
個別ご提案			
NASDAQ	4000\$	48000\$	5,376,000円~(112\$)
BME	-	40000€	4,880,000円(122€)
EMMI	-	10000€	1,220,000円(122€)

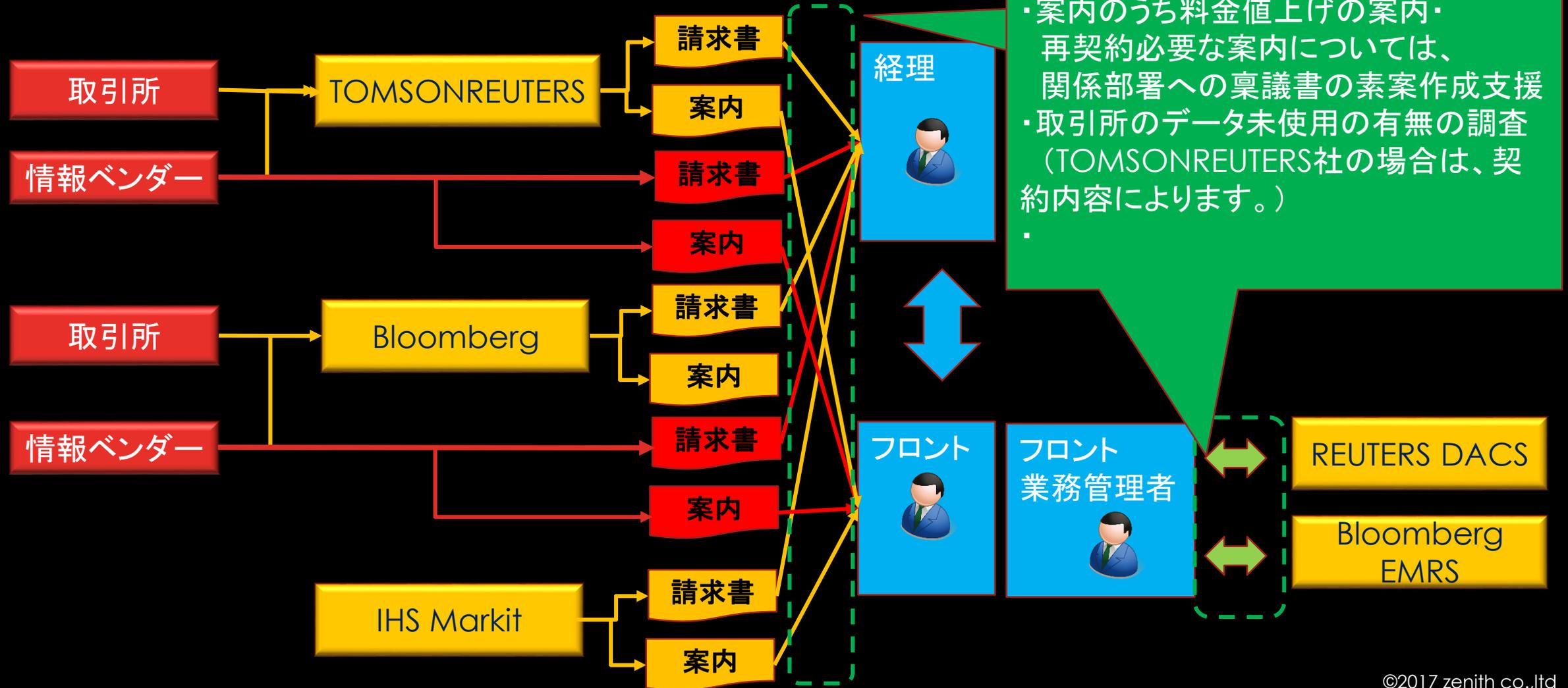
個別ご提案

外部情報料適正化後の運用支援:外部情報ベンダーからの料金改定・請求業務を支援

取引所・情報ベンダーからの送付される請求書・各種案内については、通常の請求であれば単純経理処理で処理可能だが

その明細の内容と実態の照合に複数部署(経理・情報使用部署)の確認・作業が必要となる。この煩雑な業務処理部分を弊社の要員で代替し効率化いたします。以下に代替する部分を以下に示します。

* EMRS・DACsの代理運用も対応可能。



外部情報料適正化により得た外部情報データの御社内での使用方法を分析。
システム・業務効率化の支援

外部情報料適正化により実施した御社のデータ使用方法の実態・実運用に対して今後のシステム効率化への提案の実施
例えば

弊社パートナー関係であるIHS Markit社のEDMへの適用効果分析の支援・その他システム化支援



費用お見積り方法

Step1:外部情報適正化	Step2:外部情報からの案内・請求 業務支援	Step3:EDM・システム合理化支援
取引所・商品種類毎の数によりお見積り(例えばCMEであればCBOT,CMEのEQUITYで個々1つ(計2つ))	Step1で実施した商品数と取引所データ料金変更時の組み合わせ(半年に1回)にてお見積り	別途ご相談
REUTERS DACSコードでの算出も可能	—	—